

平成29年度 西東京市立田無第四中学校 関係者評価表

学校の教育目標						
・すすんで学び、しっかりした学力をつけよう。 ・丈夫な体をつくり、豊かな情操を身につけよう。 ・友達を大切に、仲間の輪をひろげよう。 ・目標を決め、深く考えて、最後までやりぬこう。						
1 目指す田無四中の姿 (1) 確かな人間関係を基盤とする「開かれた学校」 (2) 生徒と教職員一人一人が生き生きとしている「活力のある学校」 (3) 生徒、教職員が一体となり、本気で取り組む「感動あふれる学校」						
2 目指す四中生の姿 (1) 自ら学び視野を広げ、丈夫な体と豊かな情操を身につけた生徒 (2) 友達を大切に、礼儀正しく接し、相手を思いやれる生徒 (3) 何ごとにも本気でねばり強く取り組み、最後までやり抜く生徒						
3 教職員の姿 (1) 一人一人を大切に、礼儀正しく公平に生徒と接する教職員 (2) 教育の専門家として資質向上に心がけ、研修に励む教職員 (3) 教育公務員としての自覚を持ち、信頼される学校をつくる教職員						
	具体的方策	学校自己評価		学校の取り組みおよび改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
		取組指標	成果指標			
確かな学力の向上	授業のユニバーサルデザイン化を重視し、「わかった」と言える授業を実施する。	4	4	わかりやすい授業を目指した。授業のねらいを明確にして、習得したことを活用し身につける授業に取り組んでいく。	A	引き続き授業のユニバーサルデザイン化を進めてほしい。授業の「めあて」を板書する事はとてもよい。
	教材教具の工夫やICT機器の活用を進め、興味をもって学べる工夫を行う。	3	4	教材・教具の工夫に研究授業での成果を生かした。コンピュータ・視聴覚機器の授業への活用をさらにすすめる。	A	引き続きICTの活用をすすめてほしい。タブレットの活用も進めてほしい。
	言語活動を生かした授業に取り組み、「思考力・判断力・表現力」の育成に努める。	4	4	記録する、要約する、説明する、論述するなどの活動を意図的に設定した。さらに、生徒の考える時間を増やしている。	A	記録する。要約する。説明する。発表する等を引き続き取り組んでほしい。
豊かな心の育成	学校行事や委員会活動、部活動などの諸活動を通して、学級・学年への所属感や自己有用感を育てる。	4	4	それぞれの活動において、所属感や自己有用感を高めるよう指導した。上級生を手本として取り組んでいる。さらに、活動を活発にさせていく。	A	行事への参加意欲が高い。上級生としての態度が育っている。
	学校図書館の活用を進め、朝読書や読書マラソンに取り組み、読書習慣の定着を図りながら、学びを深めさせる。	4	4	慣れない環境の中での体験学習には、自立した心で臨み、共に支えあって取り組み、生徒の印象に強く残った。体験学習の機会を今後も生かしていく。	A	朝読書等の活動はとてもよいので今後も続けてほしい。
	道徳で人権や命を大切に授業に取り組み、自他を大切にする態度を育てる。	4	4	道徳教育、人権尊重教育などを継続して行い道徳的判断力を育成している。道徳授業地区公開講座では外部講師を招聘した。続けて人権課題を取り上げていく。	A	道徳授業地区公開講座の内容が良かった。引き続きいじめや人権に取り組んでほしい。
個に応じた指導	基本的な生活習慣の育成を目指し、時間を守る、あいさつを交わすなどのルールやマナーの大切さを理解させ、集団としての成長を図る。	4	4	あいさつ運動、一分前着席など行い、規範意識や生活習慣を日々の生活の中で繰り返し意識づけ指導し、一定の定着が見られる。今後も自分たちで行動できるように指導していく。	A	学校全体での生活は落ち着いている。あいさつなど今後も続けて取り組んでほしい。
	ふれあい週間や教育相談活動を充実させ、個々の生徒との関係を築き、いじめの防止等生徒の学びを支援する。	4	4	職業調べ、身近な人へのインタビュー、職場体験、上級学校調べ等行い、自らの生き方、意識づけを早めに行っていく。	A	教育相談の取組はとてもよい。今後も取り組んでほしい。
地域との連携	ボランティア活動や奉仕活動、清掃活動等を進め、生徒の自主性を伸ばすとともに、地域社会の一員としての自覚を育てる。	4	3	生徒会等を中心にボランティアへの参加呼びかけをしている。ボランティア活動の報告を朝礼で行っている。	A	ボランティア活動の報告を朝礼で行っているのはとてもよい。生徒による参加の呼びかけを続けてほしい。
	学校公開や学校HP・学校だより、学年だよりなどを通して、本校の教育内容や生徒の活動について積極的に発信し、理解と協力を得る。	4	4	各種便り、HPの活用により学校の様子をタイムリーに情報発信している。携帯メールの活用により行事の開催等の情報発信も積極的に行っている。今後も続けていく。	A	学校理解が進むので情報発信を今後も続けてほしい。

A：自己評価は適切である。 B：自己評価は適切ではない。 C：評価のための資料が不足している。 D：評価は不可能である。